

# ☆☆☆ Library Eye 2021 ☆☆☆

第18号 2021年9月1日(水)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



## 【ワクワクしていますか？】

ずいぶん昔のことですが、光源が☆のかたちをしていると、その下の木漏れ日も☆のかたちになることを知って、とても感動したことがあります。

これはピンホール現象と言うのだそうですが、こうした感動が好奇心となって育っていくところに、来年4月から始まる「教えない学習」の原点があります。

ところが、この「教えない」というのが、ひどく厄介なのです。なぜなら、私たち教師は「教える」ためにプログラミングされた Teacher 君だからです。教えたくて、教えたくて、たまらないのですが、それをグッと我慢しなければなりません。

**「教えない学習」は、生徒自身が、なぜ、と問うこと自体に真の目的がある**のです。瓦を磨いても鏡とはならないように(『伝灯録』)、そもそも従来の「教える学習」とは目指すべき方向が違うのだという共通認識を私たちは教師が持つ必要があります。

その成長を願うあまり、早く育て、と麦の穂を引っ張って枯らしてしまうことのないように(『孟子』)。

## 【キラキラしていますか？】



10年ほど前、中1の数学の授業で「8gの封筒に便箋を5枚入れたら、重さが23gでした。では、便箋1枚の重さは？」という問題を出したところ、男子生徒の1人が隣の友達に「便箋って何？」と尋ねたそうです。

こうした「言葉のつまずき」は誰もが経験していることではないでしょうか。そうかと思えば、時計が読めない生徒もいます。早朝、図書館を利用する際には、カウンターに置いてあるファイルに氏名や来館時間などを記入することになっているのですが、カウンターの背後の壁にかかっている大きな時計をじっと見つめたまま10秒ほどフリーズしてしまう生徒は1人や2人ではありません。

学習は、こちらが予想もしないようなところでつまずいている可能性がある、と考えておいたほうがよいでしょう。

国立情報学研究所センター長の新井紀子さんは、ずいぶん以前から、教科書を正しく読んでいない児童・生徒の多さを指摘していましたが、ブルーカラーの仕事だけではなく、ホワイトカラーの仕事すらAIに奪われる時代が近づいてきているという今日、**ものを考え、ものを語るために、読書を習慣化させて言葉を育てることから実践していくべき**でしょう。

「どうして女子は一緒にトイレに行きたがるのか？」

これは偏差値が抜群に高い中高一貫校の生徒が授業中に立てた「問い」ですが、こうした「問い」を笑って許容できる雰囲気があるかどうかは、「教えない」学習を成功に導くためには、とても大切なことなのです。

**ゴリラの子どもは好奇心が燃えると眼が金色に輝くそうですが、私たち教師の眼も少年のようにキラキラと輝いているでしょうか？**

まずは《ことば》を育てましょう、なにを描いても。



## 【本にまつわる物語を展示中です！】

現在、図書館入口のスペースでは「本にまつわる物語」というテーマで展示をしています。

図書館、書店、出版社などを舞台にした小説には、司書や図書委員、書店員や本の作り手が主人公で、様々な角度から本を中心に物語が描かれています。

映画化やドラマ化された作品も多く、『図書館戦争シリーズ』『舟を編む』『校閲ガール』などは、ご存じの方も多いかと思います。

展示中の本の中からいくつか簡単にご紹介します。

高校の図書室を舞台にして、主人公の図書委員たちが、恋や将来に悩み、揺れ動く姿を描いた『吉野北高校図書委員会』や、反社会的勢力が倒産寸前の出版社を救うというちょっと風変わりな『任侠書房』は、優しい気持ちになれる人情ものです。『本のエンドロール』という作品は、作家が作品を書き上げてから本が完成するまでの、ふだんはあまり知られていない裏方の人々に焦点をあてた小説です。1冊の本が書店に並ぶまでには、たくさんの人々の仕事によって作り上げられているのだと実感できます。

ほっこり暖かな気持ちになるもの、ミステリーもの、お仕事もの、家族ものなど、幅広いテーマの本にまつわる物語が、生徒の皆さんを待っています。ぜひ、1冊、手に取って欲しいと思います。



## 【明星小学校の図書室へ！】

今年度から新たな試みとして、中高図書館の司書が週に1回交代で、同じ敷地内にある明星小学校司書に代わって図書室を担当しています。

学齢が上がるごとに、読書から離れていく傾向にありますが、やはり小学生は読書が盛んで、特に低学年は活発に図書室を利用しています。2時間目と3時間目の間にある「ほのぼの」という15分間の休み時間には、貸出カウンター前に列が出来てしまうほど、たくさんの児童がやって来ます。調べ学習などの授業で図書室を利用することも多く、児童と図書室の距離が近いように感じます。

読書を楽しむという幼少時の習慣を、中学生以上の生徒の皆さんにも継続してもらえたらと思います。

今後は、生徒や児童も関わる形の様々な連携を進めていく予定です。

## 【生徒おすすめ本の展示を始めました！】

夏休みの開館期間中、読書家の高校生に図書館担当の川邊靖先生が、「これは絶対読むべきというおすすめ本をみんなに紹介してみてもいい」と勧めたところ、すぐにリストを提出してくれました。テーマは「泣ける本」です。リストの本はすべて図書館にありましたので、早速、カウンター前に特設コーナーを作り、氏名を出してよいということで「○○さんがおすすめする“泣ける本”」として展示をしました。

すると、利用者からの反応がとてもよく、すぐに8冊中4冊が貸し出しされました。また、数日後、「おすすめ本の展示をやりたい」とう生徒さんが、カウンターに来ました。

そこで、図書館ではいくつかルールを作り、希望があれば展示コーナーを設けることにしました。申込書を作成し、①匿名希望の有無、②おすすめテーマ、③おすすめ本のリストを記入してもらいます。おすすめ本は5冊以上10冊以下として、その中から1冊、簡単でよいので自由にPOPを作ってもらい決まりました。展示の時期や期間は、図書館に一任してもらいます。

展示希望者を募集中ですので、お子様に興味があるようでしたら、是非おすすめしてください。みなさんの希望や意見を図書館運営に反映させていきたいと考えています。

